

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
人間文化学部 国際文化学科	岡本 弘道 高松 亮太 鄭 銀志	R1.7.24（水） 14：40～16：10	1212 会議室	テーマ：ICTの有効活用に向けた検討Ⅰ
				実施目的：ICTを活用した効果的な教育の実現を目指し、学科として組織的な検討を試みる。
				キーワード：ICT・eラーニング・自修支援・ポータルサイト
				実施内容： ICT（情報通信技術）を効果的に用いた授業を展開している学科教員3名（栗原武士准教授、富田和広教授、向居暁教授）が実践報告を行うとともに、効果的な利用方法に関するレクチャーを行う。 その情報を教員全員で共有したうえで、質疑応答・意見交換を行い、ICTを活用した効果的な教育方法を模索する。
人間文化学部 国際文化学科	岡本 弘道 高松 亮太 鄭 銀志	R1.11.13（水） 14：40～16：10	1212 会議室	テーマ：ICTの有効活用に向けた検討Ⅱ
				実施目的：ICTを活用した効果的な教育を実現し、教育内容を改善するための、組織的な検討を試みる。
				キーワード：ICT・eラーニング・自修支援・学修成果
				実施内容： 7月24日に実施した第1回のFDにおける検討を踏まえ、各教員が後期の授業においてICTをどのように有効活用しているのか、またその工夫が学修状況にどのような変化を及ぼしているのか、ということについて、全教員による実践報告を行う。さらに、質疑応答・意見交換を行い、ICTを活用したさらなる教育内容の改善に向け、より具体的な方策を講じる。
人間文化学部 健康科学科	松本 拓也 谷本 昌太 森脇 弘子	前期：6月 後期：未定	広島キャンパス 講義室	テーマ：食品衛生監視員養成についての組織的取り組み
				実施目的：本学科では食品衛生監視員の資格が取得できる。その業務内容や採用試験の実際について、学科教員を対象に勉強会を実施し、求められる知識・技術を知り、それを授業改善に活かすことにより、組織的教育の実現を目指す。
				キーワード：食品衛生監視員養成、組織的教育、情報共有
				実施内容： 食品衛生監視員を講師として招聘し、業務内容や求められる知識・技術について講演を行っていただき、その後、意見交換会を実施する。また、採用試験の実際について学び、専門教育に反映できるよう検討する。それらより、健康科学科における組織的教育の実現を目指す。

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
経営情報学部 経営学科	粟島 浩二 平野 実 矢澤 利弘 足立 洋 村上 恵子	令和元年9月 ～ 令和2年1月	広島キャンパス 1212会議室	<p>テーマ： 大学基礎セミナーの教育内容・指導方法の検討</p>
				<p>実施目的： 全学共通教育科目の初年次導入科目に位置付けられる「大学基礎セミナー」は、その目的を新入生が大学での学びにスムーズに移行できることとしている。そこでの学修は学生のその後の学びと学生生活を充実させる上で重要な役割を果たすと考えられること、また、この科目は再編後に「大学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」に拡充されることから、今年度の学科FD活動では「大学基礎セミナー」の内容や指導方法を検討する。</p>
				<p>キーワード： 大学基礎セミナー，大学での学び，参加型学修</p>
				<p>実施内容： 「大学基礎セミナー」について学科全教員で意見交換し、再編後のこの科目の内容や指導方法を検討する。 具体的には、毎月1回の学科会議に合わせて、1回あたり1～2名の教員が「大学基礎セミナー」での学修内容や指導方法について報告する。特に少人数教育の特色を活かした参加型学修のあり方や主体的な学びを促す指導方法・教材、学生とのコミュニケーションの取り方などを報告する。 報告後は質疑応答を行い、各教員が参考とすべき点、工夫や改善が望まれる点などについて、全教員で情報・意見を交換・共有する。</p>
経営情報学部 経営情報学科	広谷 大助 佐々木宣介 重丸 伸二 冨田 哲治	11月6日（水） 2月13日（木） 2月14日（金）	講義室 会議室等	<p>テーマ： 経営情報学専門演習における中間発表会の導入による評価と検証</p>
				<p>実施目的： 学科で新たに実施する中間発表会を契機に、振り返りシート及びルーブリックを利用して自身の研究内容について振り返り・自己評価をすることで、研究状況および成果を客観視して把握し経営情報学専門演習の内容の充実及び学生の満足度を高める。</p>
				<p>キーワード： ルーブリック，振り返りシート，自己評価</p>
				<p>実施内容： 経営情報学部では卒業論文に相当する経営情報学専門演習において3年次にゼミに配属され、4年次2月に実施される卒業論文発表会に向けて、各研究室で指導が行われている。これまで、各研究室において卒業論文題目を6月に1回提出する事は求めていたが、中間発表等のチェックポイントは独自に設けられていた。今年度から、学科全体で中間発表会を実施することで、実施内容や評価基準の統一を図る。また、中間発表会でのプレゼンテーション、近い専門分野の教員との議論、専門性の異なる教員や他の学生からの質問への回答や今後の課題等を振り返りシートにまとめる。さらに、ルーブリックを用いて自身の卒業研究への取り組みに対する自己評価を行うことで、解決すべき課題が明らかになり、各学生が経営情報学専門演習に取り組む意欲の向上が期待される。</p>

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
生命環境学部 生命科学科	齋藤 靖和	令和元年6月～9 月、随時	大講義室 各研究室	<p>テーマ： 大学基礎セミナーの実施方法の改善についての検討</p> <p>実施目的： コース選択及び研究室配属を1年次から意識させ、卒業研究へ向けた行動をスムーズに開始できるようにサポートする。</p> <p>キーワード： 研究室訪問、質疑応答、レポート作成</p> <p>実施内容： 食品資源科学コース、応用生命科学コースの各コース毎に所属教員が分野および研究内容を紹介した後、少人数で各研究室を訪問する形式で実施しているが、その内容ややり方について昨年度までの学生アンケート結果や教員からの意見を参考にして改善を検討し、ブラッシュアップを図る。 大学基礎セミナーで学んだ、レポートの書き方やノートテイクの手法も活用しながら食品資源科学コースでは、教員の専門分野の説明についてメモを取ると同時に疑問点を調査する方式で、応用生命科学コースでは、教員による課題提示を行い、各研究室を回りながら分野研究をしていく方式で実施する。研究室訪問前後のレポート提出や訪問時の教員との直接対話、質疑応答などを通じて学生の理解や意識がどのように深まったのかを検証する。また、学生が自身の将来の所属コースや研究室選びがしやすいように研究室訪問に対する敷居を少しでも低くできるようにする。本年度はこれまでのアンケート調査に基づいて、基本的な方法は踏襲しながら、修正を加えながら実施する。また、授業アンケート調査と科目ルーブリックを用いた自己評価を実施し、今後の実施や評価の方法についてさらなる改善の検討を行うと共に、再編後の教育にも活用できる手法や内容についても調査・検討を進める。</p>
生命環境学部 環境科学科	大竹 才人	年10回程度	1701号室 第一・第二会議 室および各教員 研究室	<p>テーマ： キャリア形成の意識付けを如何に学科のプログラムの中で体系化できるか？</p> <p>実施目的： 多様な出口を持つ環境科学科の学生に対して、就職先を含めたキャリア形成と学科の講義内容との関連性を学生自らが気付かせて学修意欲と授業満足度の向上を図る方策を模索する。</p> <p>キーワード： キャリア形成、学外事業所見学・実習</p> <p>実施内容： キャリア形成を学生自身の事として気付かせ、考えさせるためには、本学科での学びが、社会でどのようにして貢献しているのかの理解を深める必要がある。そのためには、環境関連産業の業界研究や事業所現場の見学などの学外実習を含めた導入教育を行っていく必要がある。更にそこで得られた知識や体験による気付きを踏まえて、本学科が提供する専門科目の内容との繋がりを見出させ、専門科目の講義や実習に対する学修意欲の向上を図る必要がある。 ここでは、環境科学の専門科目へ誘い、専門科目の学修が自らのキャリア形成に結びつける導入教育科目を学科のプログラムに位置付けて構築するために、より良い方向性を考案、試行し改善するためのワーキンググループによって協議を行う。それらの実践内容やアンケート等による検証結果等を学科会議等を通して共通教育担当教員を含めた学科内で共有して学科全体の教育体系の理解を深めると同時に更なる改善を行い、学生の学修意欲と各授業の満足度の向上につなげる活動を実施する。</p>

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 FD委員会	細羽 竜也	令和元年度 12月～3月	三原キャンパス内	<p>テーマ：学生のヘルスサポーターマインドの育成における地域貢献事業の効果を省察の観点から検証する</p> <p>実施目的：地域貢献事業について、参加する各学科の学生への事業効果を、特に省察の観点に着目して評価・分析するため</p> <p>キーワード：ヘルスサポーターマインド、地域貢献事業、保健医療福祉</p> <p>実施内容： 昨年度に引き続き、年間を通じて行われる保健福祉学部各学科の地域貢献事業のうち、学生が参加する事業について、平成19年度現代GPで作成した評価表を用いて、学生への影響を検討する。なお昨年度に検討した事業参加の効果の検証に加え、今年度は事業参加後の省察（振り返り）が学生の育成に及ぼす効果を検証する。このような検証結果を年度の終盤にFD研修会という形で、学部内に公表・協議することを企画している。</p>
保健福祉学部 看護学科	教育課程検討会 松森 直美	毎月1回	2416会議室ほか	<p>テーマ：看護学科教育課程および学修支援アドバイザーの運営、国家試験対策の検討</p> <p>実施目的：看護学科の各領域の代表者が集まることにより学科全体の意見集約と検討結果の反映を行う。</p> <p>キーワード：教育課程、学修支援アドバイザー、国家試験対策</p> <p>実施内容： 1. 看護学科の教育課程について文部科学省から提示されている看護学教育モデルコアカリキュラムのチェックシートを活用し、現在の教育課程の課題について明らかにすること、また、8～9月に厚生労働省により改正される指定規則を反映した新カリキュラム作成の基礎資料を作成する。 2. 学習支援アドバイザーの運営ガイドラインの見直しと成果をまとめ検討する。 3. 看護師・保健師国家試験対策の方針の検討および進捗状況、結果の把握と分析を行い、対応を検討する。</p>
保健福祉学部 看護学科	山中 道代	<p>テーマⅠ 年1回 (平成31年4月 19日(金)) 13:30～16:00)</p> <p>テーマⅡ 毎月1回</p>	<p>テーマⅠ 4601会議室 テーマⅡ 2416小会議室 等</p>	<p>テーマⅠ：教員と実習指導担当者との情報共有と教育方法の改善</p> <p>テーマⅡ：臨地実習教育の充実</p> <p>実施目的：教員と実習指導担当者間あるいは教員同士で情報交換を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握、共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。</p> <p>キーワード：臨地実習、教育方法、情報共有</p>

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 看護学科	山中 道代	テーマⅠ 年1回 (平成31年4月 19日(金)) 13:30~16:00 テーマⅡ 毎月1回	テーマⅠ 4601 会議室 テーマⅡ 2416 小会議室 等	実施内容： テーマⅠ：実習指導担当者協議会を開催し、情報共有とグループ討論を実施する。今年度は「地域包括ケアの中で働く看護師の育成に向けて-臨床と教育の立場から-」というテーマでグループ討論を実施する。 テーマⅡ：臨地実習に関わる情報を教員間で共有し、学生指導や実習環境についての検討を行う。また、年間実習計画の調整および見直しを実施する。さらに、風疹・麻疹患者数の増加が報告され、抗体価検査やワクチン接種などの対応が求められてきていることから、学生が安全に実習を行えるよう看護学科での対応について検討する。
保健福祉学部 看護学科	看護学科 FD 担当 吉田 和美	令和元年5月 ～ 令和2年3月	三原キャンパス	テーマⅠ： 授業公開・授業参観を通じた教員相互の授業設計の点検 テーマⅡ： パフォーマンス評価と評価指標（ルーブリック）の作成方法に関する学修 実施目的： 卒業時の到達目標（DP）の達成に向けて、専門職として必要な知識・技能の積み上げを効果的に行うために専門職育成に関わる教員が協働し、授業設計を再点検する。 キーワード： 授業設計、パフォーマンス評価、組織的教育 実施内容： テーマⅠ：授業公開・授業参観を行うための体系を整備する。参加教員は、「授業設計」の点検と「単元ごとの目標達成に向けた教授方法の工夫」に関する情報共有を行い、領域横断的な講義・演習・実習を充実させるための意見交換をおこなう。通年で実施した授業公開・授業参観から集積した意見から、授業設計の点検に関する成果と課題を分析する。 テーマⅡ：看護教育のためのパフォーマンス評価（著：糸賀暢子／元田貴子／西岡加名恵）の書籍抄読をおこなう学修会を開催する。パフォーマンス評価の進め方（パフォーマンス課題やルーブリックの開発）に関する研究に先駆的に取り組まれている京都大学教育学研究科教育学環専攻教育・人間科学講座教授の西岡加名恵氏を招致して「パフォーマンス評価の進め方（仮）」の教授を受け、教授された内容を自己の授業への取入れを検討するワークショップの開催を検討する。
保健福祉学部 理学療法学科	佐藤 勇太	(前期) 毎週水曜日4限 (後期) 毎週水曜日1限	2416 会議室	テーマ： 「学生の動向を把握・共有する」、「講義の形態・方向性を吟味する」 「各教員の研究領域の紹介」 実施目的： 「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」、「さらなる専門教育の充実を図る」 キーワード： 学生生活、国家試験、指定規則

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 理学療法学科	佐藤 勇太	(前期) 毎週水曜日4限 (後期) 毎週水曜日1限	2416 会議室	<p>実施内容：</p> <p>(1)「学生の動向を把握・共有する」について 各学生の情報を共有し、指導・援助の一貫化を図る。各学生の状況は、毎週の学科会議にて各学年担当のチューターから報告される。配慮が必要な学生に関しては、各担当教員を中心に詳細な報告・情報共有をし、協議を行う。臨床実習の時期には、実習地訪問の結果なども共有していく。</p> <p>(2)「講義の形態・方向性を吟味する」について 専門教育のさらなる充実を図るために、講義内容、学生指導のあり方について検討する。学科会議において、国家試験模試の結果を共有し、国家試験に向けた講義等に活用する。学科会議に合わせて月1回程、各種教授法の実践例の紹介などを通し、情報共有することで今後の講義を吟味する。また、指定規則改定に向けた実習体制の検討や教育プログラムの構築も実施する。</p> <p>(3)「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することで研究・教育能力の向上を図る。学科会議に合わせて月1回程、各教員の研究紹介などを通して実施される。</p> <p>(1)(2)(3)の内容は、個人情報を含む学科特有の内容についての議論が必要である。このため、公開は、取り扱う内容によって判断するものとする。</p>
保健福祉学部 作業療法学科	吉岡 和哉	毎月第1・3金曜 12:30~13:00	三原キャンパス 2416 会議室	<p>テーマ： 作業療法士養成教育内容および臨床実習教育の充実</p> <p>実施目的： 教育内容の振り返りを行い学内教育の向上を行う。また、臨床教育を行う病院や施設と連携し養成教育の充実を図る。</p> <p>キーワード： 授業内容の振り返り、臨床実習教育、国家試験対策</p> <p>実施内容：</p> <p>①授業内容の振り返りの実施 臨床実習後に学生から学内教育の充実度や課題などを聴取するとともに教員間で教育内容の共有・連携を図り授業内容の充実に向けて検討を行う。</p> <p>②臨床実習教育 指定規則の変更に対応できる実習形態の変更とともに実習先の病院や施設と連携を図りながら、よりよい臨床実習教育の充実について検討を行う。</p> <p>③国家試験対策 国家試験全員合格に向けて学科教員がそれぞれの役割を担い、学修をサポートできる体制を構築する。学生の学修状況を共有しながら、取り組みの効果を検証していく。</p> <p>④最新の研究エビデンスの共有 作業療法関連領域における最新の研究成果を共有し、教育内容に取り入れていくと共に、各教員の研究・教育能力の向上を目指す。</p>

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
保健福祉学部 コミュニケーション 障害学科	渡辺 眞澄	毎月1回 水曜日 12:15~13:00	三原キャンパス 1309/1310 演習室	<p>テーマ： 年間を通じた学科での教育改善活動</p> <p>実施目的： 教育の質の向上を目的として、各教員が行っている研究・教育活動，実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有する。さらに，教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として、年間を通して教育課程の改善について検討を行う。</p> <p>キーワード： 教育の改善，研究活動情報共有，伝達講習</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論 2. 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 3. FDに関連した学外等で実施された研修内容の共有
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	令和元年度授業 期間中	三原キャンパス内	<p>テーマ： 社会福祉士・精神保健福祉士養成教育の内容の充実を図る</p> <p>実施目的： ソーシャルワーク教育における講義・演習・実習科目の質の向上を図る</p> <p>キーワード： ピアレビュー，アクティブラーニング，ソーシャルワーク教育</p> <p>実施内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業公開 令和元年度5月の学科会議で以下の取り組みを行うことが合意されている。 <ol style="list-style-type: none"> ① 各教員が年度中に1回以上，授業公開を実施する。 ② 公開された他の教員の授業に，年度中に2回以上参加し，ミニッツペーパー（授業評価）を教員に提出する。実施教員はFD教員に提出する。 (2) AP事業関連の活動支援（人間福祉学科内） 令和元年度中のAP事業に係る事業について，FDer教員はむろん，学科教員もFDer教員の活動支援に取り組む。 (3) 社会福祉教育に係る研修への教員派遣と伝達研修の実施 学科教員の提案にもとづき，場合によっては学部や本部と共同企画として，教育事業に資する研修に学科教員を派遣し，伝達研修を行う。 (4) 社会福祉教育に資する企画研修の実施 学科教員の提案にもとづき，教育事業に資する研修を企画・実施する。

令和元年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるFD活動（教育改善）計画書

FD活動 実施主体	コーディネーター 氏 名	日 時	実施場所	実 施 内 容 等
全学共通 教育部門	岡田 高嘉	令和元年度 授業期間中	全学	テーマ： 初年次導入「大学基礎セミナー」について
				実施目的： 新しい「大学基礎セミナー」の開始に向けて、授業内容や実施体制について検討を行う。
				キーワード： アカデミック・スキルズ
				実施内容： 初年次導入「大学基礎セミナー」において、「科目ルーブリック」を用いた自己評価による調査を実施する。この調査は、大学生活を支える学修方法・スキルの獲得について、1年生の学生がどのように自己認識しているかを把握するために行う。調査から得られたデータや他大学の斬新かつ特徴的な取組みを参考にして、令和2年度に始まる新しい「大学基礎セミナーⅠ・Ⅱ」のあり方（Ⅰ・Ⅱそれぞれにつき、どのような内容を扱うべきか、実施運営体制はどうあるべきかなど）について検討する。